

HELLO!!!



●外国語指導助手
イングリッド・レザー
Ingrid Lezar

どっちの方法が良い？

— その2：教育 —

日本と他の国々との違いについて、今回は教育の違いに焦点を当ててみましょう。

一見すると似ている点がたくさんありますが、先日、初めて儒教に関する本を読んだときに、これまで感じてきた「違い」の全てが理解できたような気がしました。私には、日本の価値観が、儒教に根ざしたものだと感じられます。

例えば、日本の運動会で一番大事なことは、全員が参加することと、ベストを尽くすということでしょう。時には家族や地域住民が参加し、地域交流を目的とすることもあります。誰が勝つか、どのチームが勝つかは、一番の目的ではありません。

南アフリカにも運動会はありますが、日本と違って平日に行われるため、両親の参加はわずかです。一般に参加を呼び掛けたとしても、200mハードル走や高跳び、やり投げなどの競技が中心で、誰もが参加できる内容ではありません。ここでは結果が重視され、勝者は学校や地域を代表して上の大会へ勝ち進んでいきます。

欧米でみられる「個」の重視は、「個人の達成」だけでなく、「個人への配慮」も重視されています。

私は外国人教師として町内全域の学校を訪問し仕事をしています

が、個人的には小規模な学校の方が好ましいと感じます。先生から個人への配慮があることや、より多くの役割を担う機会に恵まれていることは、小さな学校ならではのでしょう。



内子町小学校音楽発表会を例に挙げれば、小さな学校では全校または学年全員が発表会に参加することになります。一方、大きな学校では、やる気のある生徒に任せられます。自主的に集まった中に男子生徒が2人しかいなかったとしても、驚きませんよね。でも、たとえ男子が自主的に参加しなかったとしても、彼らをもっと音楽に触れることは良いこと、という点には賛同してもらえるのではないのでしょうか。

他方で、大きな組織の中で社会性が身につけられるという点を重視する見方もあります。

では、何のための教育でしょうか。日本では、勉強と同じか、それ以上に人格形成が重視されます。そのため、授業に参加しない生徒であっても、人格形成に重要

と考えられている部活だけでも参加できるようになっているのでしょう。欧米では、勉強をしなれば遊んではいけないという考えが一般的です。また、国によっては学校をサボるのはご法度であるのに対し、日本では学校に通いたくない生徒に対しても特別に配慮されています。

警察が介入するような国をみると、国の教育制度が良くない場合が多いようです。実際、世界の教育制度ランキングでは、数学・科学・読書のトップ10を支配するのはアジア諸国だそうです。

このようにいくつかの違いが感じられたとしても、単純に自国の制度が優れているとは限りません。繰り返しになりますが、はっきりとした勝者がいるわけではなく、あくまでも「違い」なのです。



高校生のイングリッド(中段左)